

白井市文化センターのあり方検討委員会第4回会議（概要）

- 1 開催日時 令和3年11月5日（金）午後1時30分から午後4時30分まで
- 2 開催場所 白井市文化センター2階かおり（中）ホール
- 3 出席者
 - (1) 委員 小川真実委員長、三浦永司副委員長、久富清敏委員、榛沢宏一委員、島田伸委員、山口一郎委員、関口文子委員、山本美智子委員、五十嵐真人委員、中島恵委員、板橋章委員、鈴木隆宗委員、藤川敦史委員、
 - (2) 欠席者 比屋根健委員
 - (3) 事務局 和地教育部長
文化センター 石田センター長、高花主幹、内山図書館係長、岸下主査補、大塚主任主事、渡邊主任主事、山田学芸員
文化センターのあり方のあり方検討支援業務受託者
株式会社シアターワークショップ 伊東、山本、真木
- 4 傍聴者 11名
- 5 議題等
 - (1) 各種アンケート・ヒアリングの結果について（報告事項）
 - (2) 公募管理者制度（Park-PFI）等について（報告事項）
 - (3) 白井市の財政状況について（委員長より報告）
 - (4) 改修方法及び改修費用の提示と今後のあり方について
 - (5) 検討委員会と市民参加の役割について

（会議概要）

- ・主に第3回会議で要望をいただいていた内容について、報告事項及び議題を設定し、事務局から説明を行ったところ、以下のとおり次回会議までに準備すべき資料等の要望が委員から出された。
 - ・第2回WSの報告
 - ・市民アンケートのご意見全録版
 - ・棟別・機能別のライフサイクルコスト
 - ・各機能・施設を追加・削減した場合の費用
 - ・撤去・解体費用の概算
 - ・市の財政状況についての資料（決算カードなど）（○委員と調整し、配布可能で各委員に配布すべきもがあれば配布する）これらについては、次回以降の会議で説明及び議題として取り上げることとなった。
次回会議の議題は、各棟・各施設の存続、撤去費用等のコストの大ききな試算についての議論を予定している。

(会議内容)

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 報告事項

- ・ (1) ～ (2) 事務局より資料に基づいて説明。
- ・ 出された主な意見、質疑等と対応

(1) 各種アンケート・ヒアリングの結果について

委員 市民アンケートの施設に対する意見というところで、「駐車場が広い」「駐車場の不足」というように相反するものが書かれていますが、肯定的な意見と否定的な意見がどの程度の割合だったのか。

事務局 資料1-5には、回答の割合については反映できていないが、通常時は駐車場の広さに問題はないものの、大きな催事の際には不足するという印象。次回、全編版をお出しすることも可能なので、ご覧いただきたい。

(2) 公募管理者制度 (Park-PFI) 等について

委員 Park-PFIを導入する場合は公園全体の将来像・基本理念を検討した上で施設の検討が必要になるとのことだったが、白井総合公園全体の将来像・基本理念は存在するのか。

事務局 白井総合公園は都市計画課が担当しており、将来像についてはすぐにはお答えできない。確かに白井総合公園の敷地内に文化センターがあるが、現状この検討委員会については文化センターのあり方に絞った検討とさせていただいている。そのため、もしPark-PFIを導入する場合、この検討委員会の範疇を超える大きな検討が必要になってくる。

委員 白井市の文化センターの場合には、通常のPFIは使えるのか。

事務局 使えるかと言われれば使えるが、準備が通常以上にかかってくる点が問題。運営にかかる費用も全て算出しなければ民間事業者の候補に入れないので、時間もお金も非常に多く要する。

(3) 白井市の財政状況について

- ・ 委員長が参考資料として配布した大塚成男氏作成『白井市の財政状況』について説明した。

委員 資料の最後にかかれて「白井市に求められているのは「身の丈にあった」財政運営である。ある政策の採択が他の政策の不採択につながることを意識して、「あれかこれか」という視点から望ましい財政運営を考えるべき。」とのコメントについてどう捉えるか。

委員 将来世代に財政負担を残したくないということ。また、毎年入ってくる財源は限られるので、何か新しい事業を行うとしたらその分削減をする努力をしなければ予算は編成していけないと感じている。

委員 白井市の「身の丈」のイメージはどのようなものか。

委員 人口6万人、200億の予算規模。今後は非常に難しい財政のかじ取りをすることになる。この委員会での結論がどうなるかは分からないが、ここでは自由に議論をしようと思う。

4 議題

(1) 改修方法及び改修費用の提示と今後のあり方について

・事務局より資料に基づいて説明。

委員 文化会館棟と図書館棟とエントランス棟の3つに分かれているが、それぞれのランニングコスト・維持管理費はどの程度かかるのか。

事務局 施設全体としては、平成31年度の決算ベースで歳出が約3億5,000万円、歳入が約1,600万円。しかし、各機能の内訳は複合施設であるがゆえに説明が難しい。施設管理の費用、例えば職員人件費や光熱水費等はそれぞれの館の経費ではなく、文化センターの管理運営に要する経費として一括となっている。施設の面積に合わせて按分・操作をしないと単独の金額が出ない。

委員 建物の構造上、例えば文化会館だけ廃止してエントランスホールと図書館は生かして使うということはできるか。

事務局 文化会館棟のみを廃止する、図書館棟のみを廃止するということは可能。また、図書館機能のみ・郷土資料館機能のみ・プラネタリウム機能のみを廃止するという検討もあり得る。ただし、廃止が決まった段階ですぐに取り壊してしまうのは費用面ではマイナスに働くため、建物全体の耐用年数が終わるまでは残置が妥当かと考える。

委員 耐用年数が60年なので残存年数が30年強あるということだが、今回改修を行ったとしてこれからの30年強、現状の機能は持続して使えるのか。追加費用はかからないのか。

事務局 30年目に大規模改修をしたとしても、軽微な改修・修繕に関してはその後も費用がかかる。また、10年・20年ターンで改修の時期を迎える機器もあるので、その時期ごとに別途改修費用がかかってくる。

委員 市民アンケートを反映した内容が松案には入っているので、この機能を追加するといくら加算する、この機能を削ればどの程度のコストを削減できるというゾーン分けができるイメージしやすいのではないかと。

事務局 図書館棟に関しては図書館・中ホール・郷土資料館・プラネタリウムと四つの機能が入っている。床面積に紐づいて算出される金額の他に、図書館棟に入っている機械設備に関しては、算出の方法・按分の方法等を検討・調整させていただきたい。

委員 文化会館の歳出は約1.5億円ということだったが、もし稼働率を仮に100%にできた場合どの程度の歳入が増えるのか気になった。

事務局 施設の経費、例えば舞台音響照明の技術スタッフの委託費などが多くかかってくる。収入は上がると思うが、その分を完全に市の歳入にできるというわけではない。

(2) 検討委員会と市民参加の役割について

・事務局より資料に基づいて説明。

・意見・質疑等無し。

5 その他

・次回会議日程について

6 閉会